

## 第11回福井県支部学術集会

学術集会会長：福井県済生会病院外科部長 笠原善郎

2012年2月18日(土)、福井県済生会病院研修講堂において「大規模災害時の医療の関わり」をテーマに第11回福井県支部学術集会を開催し130名の参加をいただきました。

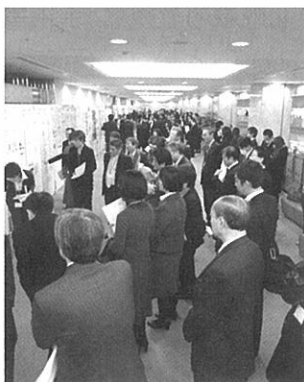
東日本大震災から、1年近くが経過し、他施設の取り組みを学ぶことで人として、医療者として、施設や組織として、何をすべきか何に備えるべきかを改めて考える機会になればと思い企画いたしました。

特別講演では福井大学医学部地域医療推進講座の山村 修先生に「巨大津波災害の教訓を見逃すな！～医療救護班の活動記録から～」の演題で福井県が組織した医療チームの活動をご講演いただきました。シンポジウムでは「福井県内の各医療機関の災害時の取り組みとネットワークづくり」と題して5名の方に災害時の各施設での取り組みや原子力災害に対する県の対応などをお話いただきました。フロアからは県への要望や提案などもあり参加者の意識の高さがうかがえました。一般演題は医療の質、DPC、医療マネジメント、薬剤師の活動など充実した内容で参加者も真剣に耳を傾けていました。

最後に本会が盛会のうちに終了できましたのも、関係の皆様方の多大なるご支援の賜物と感謝申し上げ、開催報告とさせていただきます。

## 第12回東京支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構東京医療センター副院長 大島久二



会場風景

2012年2月25日(土)に、国立病院機構東京医療センター外来棟並びに大会議室において、「地域医療充実への新たな形」をメインテーマとして第12回東京支部学術集会を開催しました。本会では、「ITを活用した医療・介護連携」のシンポジウム、『「チーム医療」の新たな取り組み』のワークショップ、「ス

ペシャルメディカルクラークの養成とその配置効果」のランチョンセミナー、一般演題として48題の発表が行われ、210名の参加者とともに活発な討論が行われました。

シンポジウムでは、名古屋、埼玉を含めた各施設でのITを活用した情報共有のあり方が発表され、多くの議論がなされました。ワークショップでは、多職種による病棟ラウンド、地域連携クリティカルパス、さらに特定看護師(仮称)の試行事業としての実績等、新たな試みが発

表され、参加者の医療マネジメントとしての関心を高めていました。ランチョンセミナーでは、近年のトピックスの1つである、より専門性の高いメディカルクラーク養成と効果の実際を国立病院機構京都医療センター北岡先生に発表いただき、各施設での参考にしていただきました。本学術集会の最も活発な議論は、48題の一般演題発表で見られました。座長を立てたポスター発表形式と自由討論時間を設けましたが、多くの質問と議論で会場が熱気に包まれていました。

本学術集会は、参加していただいた方々を含めて各施設で今後の医療マネジメントとして取り組み、改善の参考、意識の向上につながる機会になったものと思われま

## 第5回大阪支部学術集会

学術集会会長：大阪厚生年金病院病院長 山崎芳郎



会場風景

2012年2月25日(土)、リーガロイヤルNCBにおきまして日本医療マネジメント学会大阪支部第5回学術集会を開催しました。

我が国にとって戦後最大の国難とされ

る東日本大震災の発生から約1年が過ぎようとするこの時期、今学術集会のメインテーマとして「地域医療活性化に繋がるさまざまな絆」を掲げさせていただきました。

医師で大阪府選出の梅村 聡参議院議員による「東日本大震災に対する救援活動ならびに医療復興への展望」の特別講演に加えて、一般演題4題でも震災救援に関する報告があり、決して風化させてはならない次世代に伝えるべき事を学んでいただけたと考えています。

シンポジウムとしては 1)人材確保と育成・教育では自治医科大学 長谷川剛教授の講演「医療安全をいかに教育するか」 2)地域連携の現状と課題では堺市民病院 今村博司外科部長の講演「胃がん地域連携クリティカルパスの運用と問題点」と共に各5名のシンポジスト間で活発な討論が交わされました。

他に口演・ポスターあわせて70題という多くの一般演題を通じて、各々の病院独自で取り組んでいる連携構築やチーム医療に関する「さまざまな絆」について多職種間で積極的にご討論いただきました。

演題数が当初の予定を上回り、口演3会場と示説1会場の同時発表となる時間帯もあり、400名を越す参加者の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたが、皆様のご協力により盛会のうちに終了できましたこと深謝申し上げます。